



THE SUGGESTION

提 言

中小企業組合総合研究所機関紙

1月1日
第240号(2026年)

発行所
一般社団法人 中小企業組合総合研究所
〒530-0043 大阪市北区天満1-6-8 六甲天満ビル801
電話 06-6809-6634 FAX 06-6881-0782
URL http://www.kumiaisouken.com/

提言・約束事

1. 基本的には読者参加型の提言新聞とします。併せてニュース解説や話題を提供します。
2. 投稿の場合、社会規範に反するものは受け取れません。原稿掲載はスペース等の関係もあり編集者の判断にお任せ下さい。

新年明けまして おめでとーございませす

組合総研代表理事
『提言』編集長 武建一



読者の皆様には常日頃より大変お世話に相成りまして感謝申し上げます。皆様にとりまして素晴らしい新年であられることを念じておりまして。さて新年にあたりまして、過去の歴史を振り返りながら、今日現在起きている現象を通して、新年の見通しについて所見を申し述べます。

戦後憲法と民主主義の確立

日本は81年前までは明の赤子として、徴兵制治憲法の下、日本国を支配して来たのは天皇制度でありました。「基本的人権」や「主権在民」は存在せず、国民は「天皇

の赤子」として、徴兵制を行使し、日本国民のみならず、被支配国の人から搾取収奪し、人権蹂躪、虐殺を繰り返したのであります。そして世界支配を狙ったのです。

この支配者の権益を守り発展させるために、朝鮮半島、中国、東南アジア等への侵略戦争と植民地支配を実行し、日本国民の人から搾取収奪し、人権蹂躪、虐殺を繰り返したのであります。そして世界支配を狙ったのです。

日本を支配する米国と大企業

ところが安倍晋三・元総理の下、「戦後レジームからの脱却」と称し、戦前同様を繰り返す。集団的自衛権を発動させる法律が強行されました。さらには人民弾圧立法、共謀罪、特定秘密保護法の強行成立、武器輸出禁止の解除、「防衛対処」と称した敵基地先制攻撃、南西諸島へのミサイル基地と自衛隊の配備、防衛費の増大と、戦前の軍国主義が復活しつつあります。

今、日本を支配しているのは、アメリカ帝国主義国とトヨタ自動車はじめ独占企業体であり、これらのグループの政治的代理人が自民党や維新の会、国民民主党、参政党であることは、これらの党の基本理念と政策を見れば

明白です。これらの政党は、「中国(国土は日本の28倍、人口は約10倍)が軍事大国化している」と叫び、朝鮮民主主義人民共和国の自衛のための核ミサイル開発に対しては「周辺国の防衛環境の悪化」と称して軍事大国化路線を進め、原子力発電所の再稼働と新設、武器輸出、平和憲法の改悪、軍事費増大、日米軍事同盟強化路線であります。「台湾有事は緊急事態」と称して自衛隊派遣、そして戦争態勢に入ること



ベトナムから撤退するアメリカ軍

99%の人民のための社会を求めて

今、世界の資本主義は体制的危機に直面しています。資本主義の本質は、一部の特権階級の利益を得るために99%を犠牲にします。資本の集積・蓄積、自国内だけでなくグローバルな、つまり地球市場の支配を実行し、「金融自由化」と称して実体経済とは関係なく、金儲けのための博打経済(株式など)を見れば明白です。

私たちは、危険な日米安保条約を、対等・平等・公平な条約に改正する事、アジアにおける集団的自衛の方向を追求し、軍事大国化路線を改め、軍事の増大を止めることを求めます。原子力発電所は、福島県の事態を見れば、「安全神話」は崩壊したのであり、原発を認めるべきではありません。憲法9条をはじめ、平和主義の改悪を認めませ

え、99%の人民を合法的に支配する仕組みを作っているのです。私たちが、危険な日米安保条約を、対等・平等・公平な条約に改正する事、アジアにおける集団的自衛の方向を追求し、軍事大国化路線を改め、軍事の増大を止めることを求めます。原子力発電所は、福島県の事態を見れば、「安全神話」は崩壊したのであり、原発を認めるべきではありません。憲法9条をはじめ、平和主義の改悪を認めませ

ん。人質司法での冤罪事件は法制度に問題があり、黙秘権を担保できる制度を確立させる事が必に確立させる事もしくは要です。また冤罪事件については警察・検事・判事の社会的背景責任を明確にし、責任追及を法的に確立させる事もしくは要です。

関西支部が築いた生コン産業の安定

関西の生コンの歴史は、関生支部による政策闘争により、共同受注、共同販売、シェア運営が可能になりました。今日の大阪広域生コンクリート協同組合(大阪広域協組)は、全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部(関生支部)の協力なくしては実現できなかったのです。2015年に3つの協同組合が統合したのも関生支部の協力によるものです。10年以上にわたりセメントの値上げをストップしたのも、関生支部による2010年の4ヶ月半にわたるストライキによるものです。生コン価格の引き上げも関生支部の協力により実現した歴史から学ぶべきです。

関生支部への攻撃は労働条件の改悪であり、中小企業の倒産の危機である事です。(2面へ続く)

今年、世界は「創」の年です。これは創造力(クリエイション)、創像力(イメージーション)、創建(マシネーション)の発展の意味です。

創

武建一

今年の二字は「創」

これは創造力(クリエイション)、創像力(イメージーション)、創建(マシネーション)の発展の意味です。

〔1面から〕労働条件の改善は、闘う労働組合が魅力ある活動を展開し、多くの仲間を結集し、共通した課題で共闘体制を確立し、闘うことによつてのみ可能であります。

確信を持って闘う一年に

今まで社会制度は、原始共同体制、奴隷制、封建制、資本主義、独裁制と変化してきました。歴史は固定することなく変化するのです。今、資本主義社会は共生協同社会へ

〔新春提言〕日本は戦争前夜である

高市総理は本性丸出しだ 御用学者、マスコミ、一部野党と闘う方針

①彼女は「安倍元総理の政策を継承する」と言つて、それを実行している。安倍元総理の政策とは、集団的自衛権の法案を強行採決させ、日本国憲法の定めによる「戦争ができない国」から「戦争ができる国」に、いつでも、他国での戦争にも、日本が参戦するものである。

あるママタニ氏で、彼は、スリランカの無償化、住宅値上げの凍結、賃金を現在の倍以上に引上げる等の公約を掲げ、その財源は富裕層と大企業に求めるとしています。これは社会主義的共生協同型の社会制度であります。

時代は激動変化の時です。客観的条件を変えるには、国民の主体的な闘いが求められている時代です。客観情勢に確信を持って闘う年として。

2026年元旦

抑制政策であった事が明らかになっていく。

③この事を顧みることなく、戦争ができる政策へと踏み出し、防衛費を増大させ、現実に国民を犠牲にする戦争を実行する事がある。これは絶対に許す事はできない。我々は国会答弁の撤回と、軍事拡大し戦前の軍国主義への復活を目指す高市総理と、これに協力一本化する日本維新の会に断固抗議するものである。

④自民維新の両党は政治と金の問題で「企業団体からの献金の禁止」を求め、世論に対して、議員定数削減を持ちだして

⑥自民、日本維新の会、それに追随する一部野党を絶対に許す事はできないのである。今年に国民の安全、安心生活を破壊する戦争政策と、全面的な闘いを展開する年である。

⑦スパイ防止法制定、自衛隊の階級呼称を旧軍隊時代と同じように変更する、軍事攻撃を妄想し全国に自衛隊とミサイルを配備、沖縄県民の本土への避難等は、軍国主義の復活以外の何物でもなく、許す事はできないのである。

⑧法制審議会は冤罪の再審査において、検事側の証拠は全て開示すべきであり、死刑等の再審判決で無罪になった時は、担当の警察、検事、判事、法務省などの関係者を処罰する法案を国会で決定すべきである。

大阪広域協組と建交労 一部幹部との癒着

全日本建設交連一般労働組合関西支部(建交労)など一部労働組合への大阪広域協組による資金援助について、関生支部への弾圧が強化された時期(2018〜2021年までの間)、毎年億単位の金額が西日本建設関連オーナー会(オーナー会)を通して支払われていた事実が明らかになっている(こ

メントを一方的に値上げし、賃金を引き下げ、年間休日125日を105日にし、集団交渉の破壊であり、労働者を裏切るものである。これは大阪広域協組と一体となった不当労働行為である。

原因は、①権力と二体となつて関生支部への弾圧を強化した結果、関生支部の組合員が激減した事。②今では、湯川指導部の集団交渉への参加企業は実質2社(集交と言えの否か)になっている事。③長年にわたって関生支部を指導した武委

我々は提言する

このような現状を打開するために以下の事を提言する。

第一に、現在の立ち位置であるが、情勢分析を労働者の観点に立つて分析する事。資本主義は崩壊の危機に直面している。労働者に闘う確信を与える事。

第二に、労働者への敵攻撃に対し、背後に隠れている者(セメント、ゼネコン、アメリカと大企業)を炙り出し、その敵と闘う方針を明確にし、要求実現のための行動力を高める事。

第三に、中小企業とは「二面闘争・二面共闘」で、その意味は不当労働行為をするか否かで決定

社会資本政策研究会

関連団体を支援する会

K U

関西
生コン関連
経営者会

オールジャパン労働組合

電話(06) 68091634

吉野建設株式会社

悩み事相談、中小企業問題、労働問題などご連絡ください。秘密厳守いたします。

戦争反対の運動に力強く取り組もう

参議院議員 伊波 洋一



ハイサイ。新年おめでとうございます。

辺野古新基地建設の強行、沖縄を含む西諸島の自衛隊軍事基地化と日米共同演習の常態化、先島諸島や奄美群島の住民を島外に避難させる動き、岸田政権が閣議決定した安保三文書に基づく敵基地攻撃ミサイルの全国配備、安倍政権の安保法制で規定された「集団的自衛権の行

使」容認によって「ミサイル戦争の危険」への懸念が高まっています。外国人への排外主義的な言説、組合活動を理由とする働く仲間への不当な弾圧など、異論を封じ込めるような動きも後を絶ちません。

今回の高市首相の「台湾有事は存立危機事態になりえる」との国会答弁は、日本政府が「集団的自衛権の行使」を示唆し、日中外交の根本を否定するものとして、中国政府に大きな怒りを起こさせるものになっています。中国と台湾の問題は両岸みましよう。

2026年 新年の抱負

哲学者・季報『唯物論研究』編集長 田畑 稔



あけましておめでとうございます。

世界も日本も厳しい展開の中で新年を迎えました。

私どもの季報『唯物論研究』は45年目、大阪哲学学校は40年目の年となります。思想、哲学領域の在野(イン

ディペンデント)の運動ですが、多様な領域の研究者や活動家や市民が、新旧左翼から市民主義リベラルまで多様な政治的思想的立場を前提に、研究や議論や発表の場を自分たちの協同の力で作っていくという基本姿勢でやってきました。

今年のメインテーマは、「グローバル世界の構造変動とトランプ第2次政権」について、できる

過半数代表制と組合の将来

立命館大学名誉教授 吉田 美喜夫



明けましておめでとうございます。

日本の労働組合は、ほとんどが企業別組合である。そして、企業に

外に求める必要が出てくる。そこで、近年、注目されているのが「過半数代表制」である。この制度は、すでに労働基準法などで多用されている。

今年 は 飛躍の準備の年!

管理職ユニオン・関西執行委員長 仲村 実



明けましておめでとうございます。

世界は、戦争と「アメリカファースト」のトランプに振り回されています。

日本では高市内閣が発足し、早々と財界希望の労働時間の規制緩和の検討指示を出しています。

加、原発再稼働・新設まで言い出しています。とんでもないことだと思えます。

資本主義が今まで通りやっていたくない時代は飛躍を求めています。飛躍の準備の年にしていきましょう。

今年もよろしくお願ひします。



「結いの精神」を大切に

鹿児島県大島郡徳之島町町長 高岡 秀規



新年明けましておめでとうございます。

昨年、豊かな海の再生と環境教育の推進を目的に海中アート(人工漁礁)を沈設いた



暮らし満足度ナンバーワンを目指して

鹿児島県大島郡天城町町長 森田 弘光



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

年次的に整備を進めてまいりました「あまぎ自然と伝統文化体験館」の完成を契機として、観光業や農林水産業を中心にさらなる地域振興に取

未来をひらく町民主体のまちづくりに向けて

鹿児島県大島郡伊仙町町長 伊田 正則



新年あけましておめでとうございます。

私は昨年、伊仙町長として就任し、町政を

担う重責を改めて胸に刻んでおります。

就任にあたり掲げた、町民主体のまちづくり、子どもたちの学習環境の充実、農業のさらなる振興、豊かな自然と歴史・文化の継承、そして長寿と子宝のまち

結びに、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

社会再創造の動きの一役を担うために

大阪労働学校・アソシエ学長 斉藤 日出治



あけましておめでと
うございます。

核戦争の脅威、深刻な気候変動危機、難民と移民の受難、かぎりなく広がる格差、世界に渦巻く分断と憎悪の感情、このような動きがいよいよ増幅するなかで、わたしたちは新年を迎えています。この国では、昨年、極右のポピュリズム集団の社会感情をおりたててきたかたちで参政党が票を伸ばし、その社会感情

を政策理念とする高市政権が誕生して、暗澹たる前途を予感させています。

しかし、希望を喪失した社会のなかで、社会の再創造の芽がたしかに息づいていることを見逃してはなりません。

関西東震災における朝鮮人・中国人虐殺などの植民地主義の歴史的責任を問う社会運動が高揚し、東アジアの広がりのなかで持続的に追求されています。

関西生コン支部に対する弾圧の裁判では、つぎつぎと無罪判決が勝ち取られ、産別労働運動の労働権が確立されつ

つあります。「台湾有事」を口実にした軍拡の動きに地域住民が抵抗する運動が高揚します。

大阪労働学校・アソシエは開学11年目を迎えますが、このような社会の再創造の動きの一翼を担うべく、今年も努力を重ねていく所存です。張り子の虎のような国家と活力を失い自己保存に汲々とする巨大企業のヘゲモニーを奪い取る、そういう年になるよう全力を尽くしたいと決意しています。

実りのある「午年」に

オールジャパン労働組合書記長 脇屋敷 清



オールジャパン労働組合(略称:オールジャパン)は、2024年12月に結成され、二年が経過しました。この労働組合は、産業別労働組合として、セメント・生コン産業

この二年は、不当解雇・権利侵害の攻撃と闘う仲間を支援する行

成する組織です。設立の目的は、産業民主化を目指して大企業の収奪と闘い、中小企業の権益を守り、発展させる運動を展開します。

その為に企業の枠を超えて団結連帯し、労働者の経済的、政治的地位の向上を図る事を目的とする組織です。

一点突破・全面展開の流れを

労働社会学者・元昭和女子大学教授 木下 武男



あけましておめでと
うございます。

貧困の広がり極右政権誕生の中で

農業ジャーナリスト 大野 和興



あけましておめでと
うございます、と言っておられるか、と考えると、
良いのか、と考え込む年明けです。どんな世

時代は正に「存立危機」である

川柳人 乱 鬼龍



あけましておめでと
うございます。

高市首相の「台湾有事」「存立危機」発言に象徴されるように、今、私たちが生きてこの時代は、極めて危険へと、日々加速してきてい

それに抗すべき抵抗主体の側も、質量とも劣化、弱小化がまた明らかだ。

だが、「そこでどうするかける事ができるのか」という真剣な問いかけもまた弱いと思う。

「女を船に乗せるな!」「世が乱れる」

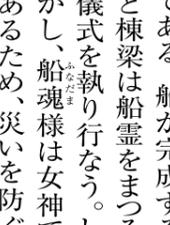
「船魂様が女に妬いて怒りなされる」



あけましておめでと
うございます。

「日本を想う」とは

日本映画監督協会理事・映画監督 杉浦 弘子



あけましておめでと
うございます。

「女を船に乗せるな!」「世が乱れる」

「船魂様が女に妬いて怒りなされる」



あけましておめでと
うございます。

「女を船に乗せるな!」乗せた地で被害が発生する。取り締まれば世が乱れる。

日本は海洋王国である。住吉大社も海の神である。船が完成すると棟梁は船霊をまつる儀式を執り行なう。しかし、船魂様は女神であるため、災いを防ぐために女を乗せないという迷信が生まれた。

「女を船に乗せるな!」乗せた地で被害が発生する。取り締まれば世が乱れる。日本は海洋王国である。住吉大社も海の神である。船が完成すると棟梁は船霊をまつる儀式を執り行なう。しかし、船魂様は女神であるため、災いを防ぐために女を乗せないという迷信が生まれた。



地域アンシエーションの芽(81)

京都大学名誉教授 本山美彦

種子をめぐる勢力(27)

油の話



隠元隆琦

「油」(oil)は、①「オリーブオイル」(olive oil)などの「食用植物油」(edible vegetable oil)②「ひまじ油」(castor oil)などの「工業用植物油」(industrial vegetable oil)③「ラード」(lard)などの「動物油」(animal oil)④「鯨油」(whale oil)などの「水産油」(marine oil)と、大まかにこの4つに区別できる(<http://www.oil-o-rip/info85.html>)。

果実の中に含まれているオリーブオイルは、重量比で10〜40%も占める「不乾性油」(ふかふか油、non-drying oil)である。不乾性油とは「常温で固まらない」(常温で固まらない)オリーブオイルと対比させる「大豆」(soybeans)と「大豆油」(soybean oil)の際立った特徴が浮かび出る。種である大豆はそのまま食べることがある。これは「落花生」(peanut、南京豆を除けば、他の「マメ類」(legumes)にはない特徴である。マメ類とは、マメ科植物の種子(実)のうち、食用・加工用に使われるものの総称である。大豆の他に、「小豆」(あずき、red beans)、「インゲン」(kidney beans)、「ソラマメ」(fava beans)、「エンドウ」(pea)などが代表的なマメ類である。マメ類は、良質な「タンパク質」(protein)や「食物繊維」(dietary fiber)を多く含んでいる。そのことから、マメ類は、「畑の肉」(meat from the field)とも呼ばれている。インゲンは、江戸時代の1654年に、京都府宇治市にある黄檗山萬福寺(おうぼくざんまんぶくじ)を開いた僧侶の「隠元隆琦」(いんげんりゅうき)が、明から持ち込んだとされる。奇妙なことに、宇治市では「藤豆」(フジマメ、Hyacinth beans)もインゲンと呼ばれる。藤の花に似た花をつけることから名づけられたのであろう。インゲンは、マメ類の中では世界でもっとも生産量の多いマメである。



栄養満点で種類も豊富な豆類

「鯨油」(whale oil)を調達するために、寄港させてくれという口実で、江戸幕府に開港を迫った

「マシュー・ペリー」(Matthew Perry、1794-1858)は、日本から大豆をもち帰り、米国の各地の農業試

験場に配布した。ペリーは、学術調査の命を帯びていた。1856年に編纂されたペリー艦隊の報告書『日本遠征記』の農業に関する箇所にある「Japan peaは、日本の丸いマメという意味である。peaは「ピー」と発音される。このpeaは、大豆のことであることが、農業試験場で明らかになった。

この『遠征記』は、当時の日本人の資質の高さを賞賛し、将来、工業化において、アジアで米国のライバルになる可能性が日本にはあるとまで言い切っている(<https://kutsuka-kenichibu.ac.jp/obuns/tyo/book/000019117/>)。

ペリー以上に日本に影響を与えた米国人は、「タウンゼント・ハリス」(Townsend Harris、1804-1878)である。米国初代駐日公使を務めた。しかし、図抜けた教養人を派遣したのに、明治新政府を動かしたのは、米国政府ではなく、「アーネスト・サトウ」(Ernest Satow、1843-1929)という外交官に対日政策を委ねた英国政府であった(<https://japressism-edia.jp/articles/-/79-976#google.vignette>)。残念ながら、日本の史学者たちは、この点の重要性にあまり気づいていないように思われる。

この技術では、「ノルマルヘキサ」(normal hexane)という溶剤が使用された。ヘキサが、油分を溶かし出す。油と溶剤が分離されず、まだ混ざったままの液体を「ミセラ」(micella)という。ミセラを蒸留して油から溶剤を取り除く。こうして、精製された大豆油が取り出せる。南満洲鉄道(満鉄)は、この技術を習得していた。しかし、鉄道業が、食品業に手を出すことはよくないという考え方が満鉄内でも多数を占めるようになったので、1916年、大豆油の抽出技術は、鈴木商店に譲渡された。

恒七の実父・初代・松原藤助(まつばらふじすけ、1789-1861)の奉公先「辰巳屋嘉兵衛」(たつみや・かへい、1801-1830)の屋号に由来する。初代藤助は、嘉兵衛から辰巳屋の屋号を譲られた。そして、死ぬ直前、息子の松原恒七に屋号を継がせた。父から屋号を受け継ぐ前の松原恒七は、父の藤助の名を自分の名としていた。そこで、彼は二代目・松原藤助とも呼ばれるようになった。自分の長男の柳田富士松の幼名も「藤松」とした。

恒七の長男・柳田富士松は、恒七の妹の養子となり柳田姓を名乗る。1885年、18歳の時、辰巳屋本家筋から暖簾分けしてもらった辰巳屋(カネ辰・鈴木商店)に入店。金子直吉が入店する1年前であった(<https://www.suzukishoten-museum.com/footstep-history/>)。



インゲンマメの花

高かった満鉄の大豆油抽出技術

近代技術が確立する前の大豆油は、何日もかけて重い石臼を回して抽出されるものであった。100キログラムの大豆から抽出される大豆油は、わずか9キログラムにしかならないという非効率的なものであった。大豆油は、儲かる分野でありながら、近代的企业は、その抽出過程には手を染めず、販売網の拡大だけに腐心していた。抽出は、零細企業に委ねられていた。

しかし、1911年、ドイツで「溶剤抽出」(solvent extraction)技術が考案された。それ以降、大豆に含まれる油のほぼすべてが抽出されることになった。乾燥大豆の場合、脂質油分の含有量は、重量で約20%を占めている。これは、他の豆類(約2〜5%)と比較して非常に高い数値

岩治郎は、現在の埼玉県川越市で当時の足軽の次男として生まれたが、生後すぐに魚屋に養子に出された。そして、12歳頃、菓子商の丁稚となる。その後、大阪の雑穀問屋「辰巳屋」の下働きとなる。辰巳屋は、外国産砂糖の輸入商としても成功していた。岩治郎は、1874年に、辰巳屋の店のつを暖簾分けしてもらい、神戸で鈴木商店を開業した。

暖簾分けしてもらった鈴木商店は、当然、辰巳屋の主力商品である輸入砂糖の取り扱いから商売を始めた。そして、1877年、姫路の漆商・丹波屋の娘である西田よねと結婚、よねは再婚であった。

大阪で大きな勢力を誇っていた辰巳屋は、松原



アーネスト・サトウ



鈴木岩治郎

恒七の実父・初代・松原藤助(まつばらふじすけ、1789-1861)の奉公先「辰巳屋嘉兵衛」(たつみや・かへい、1801-1830)の屋号に由来する。初代藤助は、嘉兵衛から辰巳屋の屋号を譲られた。そして、死ぬ直前、息子の松原恒七に屋号を継がせた。父から屋号を受け継ぐ前の松原恒七は、父の藤助の名を自分の名としていた。そこで、彼は二代目・松原藤助とも呼ばれるようになった。自分の長男の柳田富士松の幼名も「藤松」とした。

恒七の長男・柳田富士松は、恒七の妹の養子となり柳田姓を名乗る。1885年、18歳の時、辰巳屋本家筋から暖簾分けしてもらった辰巳屋(カネ辰・鈴木商店)に入店。金子直吉が入店する1年前であった(<https://www.suzukishoten-museum.com/footstep-history/>)。



神戸市栄町通にあった鈴木商店1階店奥によねが住み、2階には直吉ら20人ほどが住み込みだったという。

書籍紹介

拙劣な決断が呼び込む戦争の影
『八月の砲声』 バーバラ・W・タックマン著

1914年の欧州は、誰も「大戦」を望んでいなかった。にもかかわらず、連年の誤解と判断ミス、硬直した軍事計画が、各国を回避不能の破局へと押しやった。バーバラ・W・タックマンの名著『八月の砲声』(1962年刊)は、第二次世界大戦の勃発過程を克明に描きながら、戦争がいかに「意図せざる結果」から生まれるかを鮮烈に示す。いま国際環境が不信と緊張を増す中、本書は歴史を越えて「現在への警告書」としての意味を「層深めて」いる。

開戦へと向かう「誰も止められない列車」

歴史家であるタックマンの紡ぐ叙述の特徴は、第二次世界大戦の原因を「特定の指導者の狂気」や「ある国の野望」へと単純化せず、構造的な誤算の累積として描き出した点にある。

自国の計画に固執し、情報は錯綜し、誤解は訂正されないまま膨らんでいく。どの国も「自衛」を主張しつつ、相手国の行動を攻勢と受け取り、結果として事態は自動的に進行する。まるでレールに乗った列車のように、誰も止められない。

ケネディが本書から読み取った「恐怖」

1962年、米ソが核戦争寸前まで突き進んだキューバ危機の最中、アメリカのケネディ大統領は刊行されて間もない本書を読み、強い衝撃を受けたとされる。彼がそこに見たのは、誤解・錯報・軍の独走・面子への固執が、戦争を不可避なものに見せかける過程である。

「台湾有事」の議論に重なる危うさ

本書をいま開くと、東アジアの現状と響き合う部分は少なくない。

高市首相の「台湾有事」を巡る国会答弁以降、日中関係は急速に悪化し、経済的にはもちろん、人の往来にまで支障をきたす事態となっている。台湾情勢をめぐる緊張、南西諸島の軍備増強、日中間の不信の深まりといった現実が、「偶発的な接触」「誤射」「錯誤」を契機に事態が急拡大する危険を抱えている。

タックマンが描いたのは、まさにこの「意図せぬ戦争」への転落である。戦争はしばしば、強い意志ではなく、弱いコミュニケーションから始まる。

対話の欠如、思い込み、政治的な面子、短期的な国内向けアピール、それらが積み重なると、当事者たちが見え望んでいなかったはずの衝突が現実となる。

ケネディは本書から学び、軍の強硬策だけではない、同じ構造が姿を見せつつあることに、読者は戦慄を覚えるだろう。

「軍備こそ抑止」という常識への問い

タックマンの叙述は軍事的な戦術・作戦にも及ぶ



フランス東部にある第一次世界大戦で亡くなったフランスとドイツの兵士の墓地

が、結論は単純な軍拡論とはほど遠い。

むしろ、軍拡は相手の疑念を増幅し、互いの「いま動かねば手遅れになる」という焦燥感をかき立てることが、戦争勃発の二因であったと示す。

つまり軍拡競争は、抑止どころか、誤算の可能性を高める作用も持つ。ある地域で軍備が強化されれば、周辺国は自国の安全のためにさらに軍拡を進め、それがまた新たな警戒心を生む。この不信の連鎖の中で、対話は後景に退き、偶発的な危機が可視化されない形で積み上がっていく。

対話の勇気を持った読者の必読書

戦争は、強い意志によってではなく、むしろ止める勇気が欠いたときに始まる。「八月の砲声」はその事実を、歴史の実例をもつて突きつける。

緊張が高まる地域でこそ、軍備ではなく、対話・外交・信頼醸成こそが最大の安全保障となる。その当たり前前の真理を忘れそうになっている現代において、本書は改めて読む価値のある一冊だ。

「望まれざる戦争」は、いまも私たちの周囲に潜んでいる。その危険を直視し、冷静な思考を取り戻すためにタックマンのこの古典は、まさに今こそ読むべき本である。

頑張れ尾上部屋
関取誕生への期待ふくらむ初場所

明けましておめでと〜いびぎ〜ます

公益財団法人 日本相撲協会

尾上圭志・部屋一同



拝啓 時下ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。日頃から皆様方にはご支援ご声援をいただきありがとうございます。

昨年相撲界も新横綱新大関が誕生し、さらに勢いある若手の活躍と、また新しい波が寄せてきております。おかげさまで本場所の方も連日の満員御礼で、大変盛り上がりしております。

尾上部屋・大海 引退

日本相撲協会は昨年11月26日、大海ら4力士の引退を発表した。

大海は2001(平成13)年生まれの24歳。熊本県北郡芦北町出身。佐敷小学校1年生の頃から相撲を始め、佐敷中学校

3年次には全国都道府県中学生相撲選手権団体で優勝。文徳高校へ進学し、全国高校総体団体優勝に貢献するなど数々の大会で優秀な成績をおさめた。高校卒業後、尾上部屋に入門。2020(令和2)年一月初場所初土俵。生涯成績は113勝105敗20休。最高位は幕下44枚目だった。

一月場所 尾上部屋力士番付

【幕下】	西20枚目 坂林
西4枚目 ☆伊波	東36枚目 ☆照寶
東17枚目 ☆北天海	東54枚目 玄武丸
西20枚目 ☆城間	西62枚目 ☆富士の輝
東23枚目 ☆春山	西68枚目 高倉山
西44枚目 ☆穂高	東77枚目 ☆澤崎
【三段目】	
西47枚目 高馬山	【引退】 大海
【序二段】	
東20枚目 ☆九鬼王	☆印は番付上昇の力士

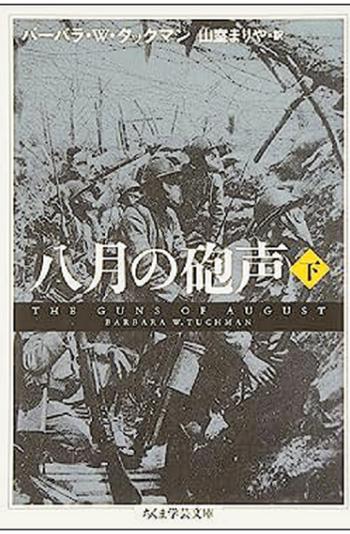
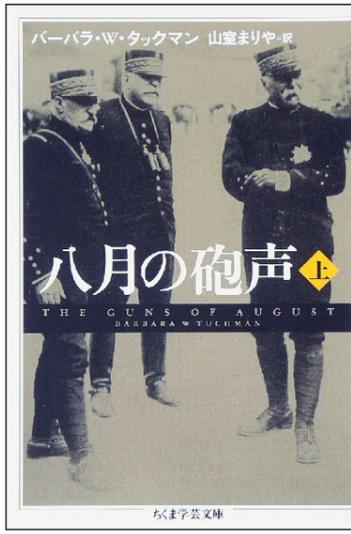


大海の鬘に鉄を入れる尾上親方(左)

提言

・千年に鞭だけ増えて
・新たな年始めに、新たな戦前が
・所得は無し(怒りのブドウ球菌)
・(憲法窮状)

物価高や税金など負担は増えますが、実質所得は増えない現状です。働いて働いて……が流行語大賞とは冗談もほどほどに。本来ならめでたい「新年」ですが、むしろ何か嫌なもの幕開け……として不信感が滲む「新年」です。



キューバ近海でにらみ合うアメリカの哨戒機とソ連の軍用貨物船